

IPERC News Letter

千葉大学大学院看護学研究院附属
専門職連携教育研究センター

2023年度版

GRIP (グリッパ) 採択と海外交流の活性化

▶ 「GRIPプログラム」の採択

令和4(2022)年度の文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」の一つとして、本学「グローバル地域ケアIPEプラス創成人材の育成(Global & Regional Interprofessional Plus Program: GRIP Program)」が採択されました。同事業の医療・保健系の分野では初めての採択となりました。

大学の世界展開力強化事業は、国際的に活躍できるグローバル人材の育成と大学教育のグローバル展開力の強化を目指し、高等教育の質の保証を図りながら、日本人学生の海外留学と外国人学生の戦略的受入を行う事業対象国・地域の大学との国際教育連携の取組を支援することを目的として、文部科学省において2011(平成23)年度から開始された事業です。

GRIP プログラムは、「持続可能な開発目標(SDGs)」の目標3:「すべての人に健康と福祉を」を実現し、WHOが提唱する「Universal Health Coverage(全ての人が適切な予防、治療、リハビリ等の保健医療サービスを、支払い可能な費用で受けられる状態)」の推進のために、地域ケアを創生する人材の育成を目的としています。また、このプログラムでは、地域ケア創生に関わる本学の全学部・大学院が参加し、インド、オーストラリア、イギリスと国際的な「地域ケア創生ネットワーク」を構築することを目指します。医療系だけでなく、多分野の学部学生、大学院生を対象とした国際的なIPEプログラムを含んだプログラムです。

本プログラムの採択を受け、2022年10月にGRIP推進委員会が発足、IPERCに位置付けられ、担当として野崎章子講師、天井響子特任准教授、高野佳奈事務補佐の3人がIPERCに新しい仲間として加わりました。

活動実績

■3大学との学習環境整備の開始

GRIPの初年度事業として、本プログラムのカウンターパートであるイギリス・レスター大学、オーストラリア・モナシュ大学、インド・シンビオシス国際大学と、プログラム開発ミーティング、フィールド調査を行い、学習環境の整備を開始しました。



▲モナシュ大学にて



▲レスター大学にて

Topics

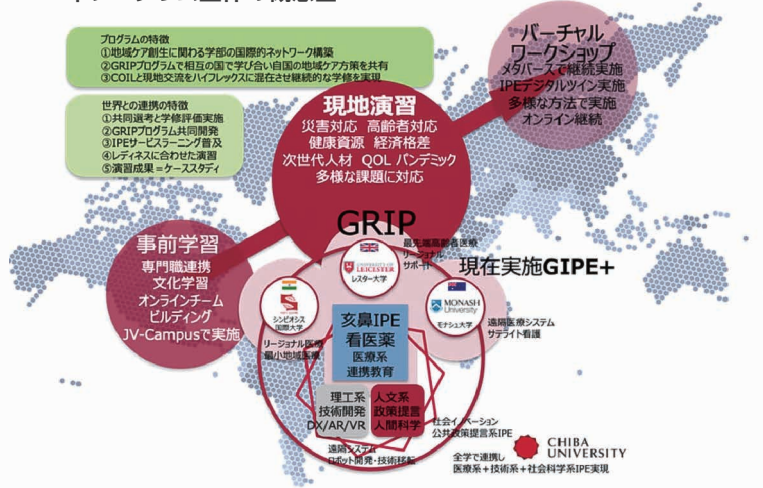
- ▶ GRIP (グリッパ) 採択と交流実績
- ▶ 国際交流活動の活性化
- ▶ 玄鼻IPEの教育活動
- ▶ 社会貢献活動IPE・IPW研修と地域貢献



グローバル地域ケアIPEプラス創成人材の育成プログラム
Global & Regional Interprofessional Education Plus Program



本プログラム全体の概念図



■日本とインドの学生の現地渡航・実習

2023年2月から3月にかけて、本事業のトライアルとして、インド・シンビオシス国際大学から10名の学生を受け入れ、本学から10名の学生を派遣しました。



▲千葉大生のインドでのフィールド演習の様子



▲インドの学生の日本でのフィールド演習の様子

▶ 国際交流活動の活性化

台北医学大学 (TMUN) との交流

■ 講義動画の提供

台北医学大学より、同校の夏季交流プログラム (2022 TMUN Online Exchange Program、7月11～22日) に日本の看護教育を紹介する講義 (動画) の依頼を受けました。このため、千葉大学看護学部より同学部の歴史とカリキュラム、地域包括ケアシステム、玄鼻IPE、日本の産後ケアの文化に関する講義動画を提供しました。同プログラムには、本学部の2名の学生を含む台湾・インドネシア・日本・タイ・香港・オーストラリアから92名の看護系学生が参加しました。

The Community-based Integrated Care Systems for the Elderly People in Japan

Narumi Ide, Associate Prof. PHN, RN, PhD,
Chiba University Graduate School of Nursing,
Interprofessional Education Research Center

THE EDUCATION SYSTEM OF THE NURSING PROFESSION IN JAPAN AND AN INTRODUCTION OF THE CHIBA UNIVERSITY SCHOOL OF NURSING AND GRADUATE SCHOOL OF NURSING

Chiba University Graduate School of Nursing
Professor of Advanced Nursing Science
Director, Center for Professional Collaboration Education and Research
Isuko Sakai (ikusakai@faculty.chiba-u.jp)

CHIBA UNIVERSITY SCHOOL OF NURSING Curriculum and Clinical practicum

Erumi USUI, RN, PHN, MW, MNSc
Lecturer of Chiba University Graduate School of Nursing
Inter Professional Education Research Center

Postpartum care for primiparous women with advanced maternal age in Japan

Graduate School of Nursing, Chiba University
Associate Professor
Kunie MAEHARA, RN, RM, PHN, PhD

▲提供した4本の講義コンテンツ

■ 両校看護学部教員の相互訪問

2023年3月に両校の看護学部の教員が相互訪問を行い、シミュレーションIPEとサービسلラーニングの両分野において、学生・教員間の交流および共同研究の可能性に向けて、話し合いを行いました。



▲台北医学大学看護学院副院長 Hsiao-Yean Chiu 教授 (前左2番目)、Yeu-Hui Chuang 教授 (前列右1番目)、国際交流担当職員 Noel Wu (後列中央) が、千葉大学看護学部に表敬訪問



▲ IPERC の臼井いづみ特任講師先生 (前列左2) が台北医学大学訪問

千葉大生が台北医学大学の交流プログラムへ現地参加

2023年3月、3年ぶりに台北医学大学主催の国際交流プログラムが対面形式で開催されました。本学看護学部生3名が参加、うち1名がGHNII (Global Health and Nursing II) 単位を取得しました。



▲本学部生が現地での学習成果を発表中

ライプツィヒ大学との交流プログラム

GHNIIのプログラムとして、ライプツィヒ大学助産課程と本学看護学部の学生の交流プログラムが開講されました。同プログラムには6名の本学部生が受講し、2名が単位を取得しました。今後、ライプツィヒ大学のIPEに参加するために、交流を続けていきます。

群馬大学IPEトレーニングコースより講義依頼

群馬大学より要請があり、同校主催の「第9回群馬大学IPEトレーニングコース」(2022年8月23～27日) のコンテンツの1つとして、本年度の最新実施状況を反映した玄鼻IPEの紹介および受講者のレポート分析を含めた講義動画を提供しました。同コースに参加したフィリピン・ベトナム・韓国・モンゴル・インドネシア・タイ・ミャンマー・トルコ・中国、計9か国からの27名が視聴しました。

都立大学の国際シンポジウムにおけるプレゼンテーション

2023年1月22日に東京都立大学・教育改革事業記念 IPE 国際シンポジウムが開催されました。「世界と日本のIPEの20年、これまでの変遷とこれからの進化を探る」というテーマについて、CAIPE(The Centre for the Advancement of Interprofessional Education: 英国専門職連携教育推進センター)の関係者が講演しました。また、日本においてIPEの先駆的な学校の実践が紹介され、本校のIPERCの孫佳茹特任講師が玄鼻IPEのチャレンジ・成果・インパクトについてプレゼンテーションしました。

韓国ソウル国立大学訪問

酒井郁子センター長と朝比奈真由美特任教授が、2022年12月8日にソウル国立大学を訪問し、日本のIPEの実装状況と玄鼻IPEプログラムの内容を紹介しました。韓国では、これからIPEを実装していく動きが高まっているため、日本のIPEの状況を紹介し、今後、学生のIPE交換留学や共同研究の可能性について話し合うベースを作ることになりました。



▶ 亥鼻IPEの教育活動

■ Step1-4の実施：同時双方向型授業としての展開3年目

COVID-19の感染拡大防止のため、2022年度もStep1～4をすべてオンラインで実施しました。Step1ではふれあい体験実習で入院患者さんとのオンラインインタビューを、Step2ではフィールド見学実習で専門職へのオンラインインタビューを、Step4では模擬患者さんとの面接や専門職へのコンサルテーションを円滑に行うことができました。今年度も模擬患者さん、附属病院の専門職の皆さんに多大なご協力を頂きました。

■ Step1-4の実施：同時双方向型授業としての展開3年目

今年度、亥鼻IPEを受講した学生は、総計1120名でした。

内訳 (名)

Step1：351 (医学部120、看護学部84、薬学部97、工学部50)
Step2：268 (医学部118、看護学部82、薬学部68)
Step3：240 (医学部111、看護学部81、薬学部48)
Step4：261 (医学部129、看護学部75、薬学部57)

■ クリニカルIPE (診療参加型IPE)

附属病院では、6診療科6病棟において、クリニカルIPE (CIPE) を実施しました。合計7グループ27名 (医学部5年生8名、看護学部4年生11名、薬学部5年生8名 (うち、他大学2名)) が参加しました。今年度は、関係する診療科および病棟、そして各部署の担当者、参加学生に丁寧に説明し、CIPEの意義・目的、患者選定の基準、学生に期待する成果を共有する時間を取りました。現場の専門職のご理解とご協力のもと、参加学生は、実臨床における診療ケア計画の立案、説明、一部実施というプロセスを体験し、学ぶことができました。学生のプログラム評価アンケート (回答率81%) では、9割以上がCIPEの学習効果があったと回答しました。

▶ FD活動

■ 亥鼻FDプロジェクト

7月11日亥鼻キャンパス教職員・大学院生および附属病院職員を対象としたFD研修「リアクションからレスポンスへ～異文化感受性発達理論を問題解決に活かす～」をオンライン開催しました。アメリカ在住のメーカー亜希子氏 (Interculturalist LLC代表、組織リーダーシップ開発学、異文化感受性アセスメントシニアトレーナー) を講師に迎え、①異文化感受性発達理論の紹介、②ケーススタディを通じた日々の活動の中での自分の無意識のリアクションとレスポンスの違いを知る、③日々の問題解決において意識的な結論を導く方法を知るという内容について講義とワークを行いました。同研修には計24名が参加し、実施後に行ったアンケート調査では9割が「満足した/まあまあ満足した」と回答しました。



■ 亥鼻IPEへの協力体制

2022年度、これらの亥鼻IPEには、延べ171名の各学部教員・附属病院および協力病院の専門職の方々にご協力頂きました。

内訳 (名)

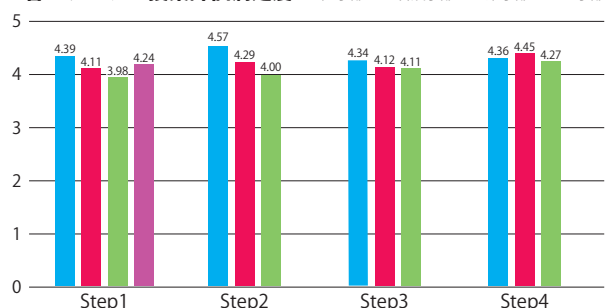
Step1：55 (医学部15、看護学部16、薬学部6、工学部14、その他4)
Step2：23 (医学部10、看護学部8、薬学部5、附属病院1)
Step3：33 (医学部12、看護学部14、薬学部7)
Step4：70 (医学部9、看護学部10、薬学部6、医学部附属病院：医師11、同看護師13、同薬剤師6、同作業療法士3、同理学療法士5、同言語聴覚士1、同社会福祉士7、同心理カウンセラー1、同遺伝カウンセラー2、同管理栄養士3)

またStep1のふれあい体験実習、Step2のフィールド見学実習では、医学部附属病院をはじめ、千葉市内外の病院その他の保健医療福祉施設32か所、また、Step1では、延べ42名の入院患者さんにご協力頂きました。

内訳 (施設数)

Step1：病院2
Step2：病院5、診療所6、薬局13、訪問看護ステーション5、回復期リハビリテーション病院2、保健機関・介護福祉施設1

各ステップの授業評価満足度



■ 酒井郁子センター長による他大学へのFD

● 藤田医科大学アセンブリ教育センター

7月24日、酒井郁子センター長が藤田医科大学アセンブリ教育センターにて、特別講演「段階的・系統的な専門職連携教育の到達目標と評価方法」を行いました。講演では、①亥鼻IPEの沿革と概要②ステップ1から4、CIPEの目的・目標、評価と評価に基づいた改善の実際③全体評価と亥鼻IPEのインパクトという内容でFDを実施しました。

● 横浜市立大学医学教育センター・医学科・看護学科の合同FD

8月8日に、酒井郁子センター長がオンライン上で亥鼻IPEの15年の歩みと、IPERCを中心としておこなわれる自立した医療組織人としてのキャリア育成能力取得のためのIPEの実際について紹介しました。

▶ 社会貢献活動

千葉大学医学部附属病院の新人研修や 現任教育IPEプログラムへの貢献

- 4月1日、医学部附属病院の総合医療教育研修センターと看護部が協働し附属病院新人研修を実施しました。IPWについては参加者が多職種となるようグループを組んでワークを実施しました。また、採血演習では、指導するスタッフが医師・看護師・検査技師と多職種で取り組みました。
- 8月1日、総合医療教育研修センターの主催する特定行為研修チーム医療演習に協力し、情報伝達スキル、カンファレンスの基本動作、対立の解決のストラテジーについて演習を実施しました。
(写真は特定行為研修の様子)
- 10月12日、看護部の看護師長研修にて、「チームとして機能するためのリーダーシップとメンバーシップの発揮」をテーマにワークショップをオンライン形式で実施しました。
- 11月17日、中途採用者研修にてIPWをテーマにワークショップを実施しました。
- 令和5年度から総合医療教育研修センター・キャリア開発室が統合することとなります。今後は同センターと協働して病院全体のIPWプログラムの開発を行っていきます。



IPE・IPW研修と地域貢献

- IPE・IPW研修のオンライン開催
2022年度のIPERCが主催するIPE・IPW研修は、オンライン形式で開催しました。
【参加者】
IPEカリキュラムマネジメント&授業開発研修： 9名
IPWベーシック研修、IPWマネジメント研修 理論編： 32名
IPWベーシック研修 実践編： 51名
IPW マネジメント研修 実践編： 6名
- 認知症専門職における多職種協働研修のオンライン開催
千葉県からの委託事業として、2022年12月17日(土)と2023年1月29日(日)の2回、開催しました。2日間合計で122名の現任者の参加がありました。
- 講師派遣依頼 37件(うち海外：3件)
他大学、学会、職能団体、大学以外の教育機関、学内附属病院、保健医療福祉機関などから教職員・学生などへのIPE関連の講義・セミナー・研修の講師依頼が昨年の2倍に増えました。
- 研究協力依頼
CICS29(専門職連携実践能力、自己評価尺度)の使用申請を7件許諾しました。
- 地域貢献活動
コンサルテーション4件(国内2件・海外2件)

▶ 人員異動

これまで玄鼻IPEの改善、社会貢献活動に多大な貢献をしてくださった、臼井いづみ特任講師が、2023年度より千葉大学大学院医学研究院附属クリニカル・スキルズ・センターに異動となりました。附属病院との連携のかなめとして引き続きご活躍を祈念いたします。

▶ 研究

■ JAIPE 特別賞受賞

臼井いづみ特任講師が日本保健医療福祉連携教育学会学術集会で学術集会長賞を獲得しました。

■ 研究成果

論文8本(うち、原著および査読付き論文5本)、学会発表12本、シンポジウム招聘19回。



▶ 事業評価

2022年度の事業実績について、外部評価委員から1. 教育：A評価、2. 実践・社会貢献：A評価、3. 研究：B評価、4. 組織運営：A評価をいただきました。前年度に比べ、「教育」と「組織運営」の項目がA評価に向上しました。とくに、世界展開力強化事業の獲得によるGRIP Programの開始をはじめ、グローバルIPEプログラムの開発と展開について、高く評価を受けました。学部教育IPEに関しては、コロナ禍での教育の工夫と、臨床参加型IPE(CIPE)の今後の展開について、評価と期待のコメントをいただきました。また、社会貢献活動について、活動の量・質両面から改善があったことを評価していただきました。世界展開力強化事業を採択されたことにより、IPERCの活動も転換期を迎えています。大学教育、医療人育成に対する社会の要請に耳を傾け、目の前の課題の解決にさらに前進してまいります。

令和5年度 研修のお知らせ

■ IPE・IPW研修

■ 認知症専門職における多職種協働研修

(開催日/1回目：2023年12月23日、2回目：2024年1月28日)

詳しくはHPをご確認の上、
お申し込みください。

<https://www.n.chiba-u.jp/iperc/>



【発行】 千葉大学大学院看護学研究院附属 専門職連携教育研究センター

〒260-8672 千葉県千葉市中央区玄鼻1-8-1 ☎ <https://www.n.chiba-u.jp/iperc/>

☎ 043-226-2614 ✉ inohana-ipe@office.chiba-u.jp 2023年12月1日 通巻5号